

2日の衆院予算委員会で、日本学術会議に関する政府・自民党と野党の議論は堂々巡りの展開となった。菅義偉首相は会員候補6人の任命を拒否した理由の説明で核心を避け続け、学術会議のあり方を問題視する自民党と歩調を合わせた。野党は「論点のすり替え」と反発を強め、首相への追及を続ける方針だ。

## 学術会議任命拒否

### 焦点

「いやいや、それはもう表になっている人です。だから、それと今回の任命権とは全く違うんじゃないでしょうか。首相は自著『政治家の覚悟』の中にかつて総務省課長を更迭した理由を述べた章があると立憲民主主義の今井雅人氏から指摘され、6人の任命拒否理由を明らかにするよう迫られると、色をなして反論した。今井氏は6人が安全保障関連法など政府の政策に反対したことと任命拒否理由の関連を追及。首相が「政府の法案に反対したからではない」とする一方、直接的な理由の説明を拒むと、「一方が話せて片方が話せないでは納得できない。狙い撃ちではないか」と食い下がった。それでも、首相は「課長の人事は表になっている」と繰り返すばかり。6人が任命拒否された事実も明らかになっているにもかかわらず、分りにくい回答が続く。

個人人事の理由があくまで説明しないとの立場を買滅裂な回答を繰り返した。

政府。菅首相は安倍政権の菅房長官時代に内閣人事局を背景に官僚に対する人事権を掌握し、官僚の過度な付度を招いたと指摘されてきた。野党はこの日の予算委で、菅氏の政治手法に焦点を当てて追及した。立憲の奥野総一郎氏は菅首相の著書について「これは『付度』のススメだ。理由を明かさず人事をする。おれの意を察して働けよ。今回の学術会議の手法もそうだ」と指摘。同党の江田憲司氏も「首相が、国民のためにならないことに腹をくくると、こんな厄介な政治家はいない。その象徴的事例が任命拒否の問題だ」と述べた。

任命の判断基準を巡る政府の説明も曖昧なままだ。首相は学術会議の会員構成について、若手が少なく、所属大学に偏りがあることなどを問題視する発言を繰り返す。だが、今井氏から比較的年齢が低い人や、会員が少ない大学に所属する人が6人に含まれている点を追及されると、「首相は若手研究者が十分いるという状況じゃない」「民間人や若手を増やした方が良いのか」と思ったと述べた。と支離滅裂な回答を繰り返した。

# 野党、政治手法を追及 首相 核心避け迷走

さらに加藤勝信官房長官が「そういうことをもって(首相は)任命を判断したのではない」と述べ、野党から議論の根本が崩れる(今井氏)と反発を招くなど議論は混迷を極めた。2004年の総務省内部資料は「学術会議から推薦された会員の候補者につき、内閣総理大臣が任命を拒否することは想定されていない」と明記している。それが18年の内閣府日本学術会議事務局内部資料で「内閣総理大臣に、推薦の



衆院予算委員会 で立憲民主主義の江田憲司氏(手前左)の質問に答える菅義偉首相(同右)＝国会内で2日、竹内幹撮影

自民党はこの日の予算委で、政府に任命拒否理由の説明を求め、菅首相を擁護する狙いがうかがえる。「『既得権益集団』の強いつつ(任命)を予想しつつ(任命)しない」「決断」をした。自民党の大塚拓氏はこの日の予算委で、首相の任命拒否判断を支持する考えを強調した。首相が「前例打破」を掲げ、行政改革を推進す

資料は「学術会議から推薦された会員の候補者につき、内閣総理大臣が任命を拒否することは想定されていない」と明記している。それが18年の内閣府日本学術会議事務局内部資料で「内閣総理大臣に、推薦の

とわりに任命すべき義務がある」とまで言えない」と変遷。首相は18年文書を引

自民党はこの日の予算委で、政府に任命拒否理由の説明を求め、菅首相を擁護する狙いがうかがえる。「『既得権益集団』の強いつつ(任命)を予想しつつ(任命)しない」「決断」をした。自民党の大塚拓氏はこの日の予算委で、首相の任命拒否判断を支持する考えを強調した。首相が「前例打破」を掲げ、行政改革を推進す

首相の発言	疑問点
必ず推薦通りに任命しなければならぬという点、内閣法制局の了解を得た政府としての一貫した考え(10月28～30日の国会答弁)	拒否できるのか 「政府が行うのは形式的任命に過ぎない(1983年、中曾根康弘首相)」「推薦していただいた任命を拒否はしない。その通りの形だけの任命をする(同年、丹羽兵助総務長官)」という過去の国会答弁との整合性は?
推薦状況の説明を受け、私の考え方は内閣府とも共有し、私が最終的な任命の判断をした(10月29日の国会答弁) 毎日新聞などのインタビューで、推薦名簿を見ていないと発言(10月9日)	経緯 内閣人事局長も務める杉田和博官房副長官はどう関与したのか
民間出身者や若手が少なく、出身や大学に偏りが見られることを踏まえ、多様性が大事ということを念頭に私が判断した(10月28～30日の国会答弁)	判断基準 在籍会員ゼロの東京慈恵会医科大学の小沢隆一教授(憲法学)ら会員が少ない大学所属の候補はなぜか
特定分野の研究者であることをもって任命を判断した(10月30日の国会答弁) 説明できることとできないことがある(10月26日のNHK番組で)	なぜ6人が拒否されたのか 文科(人文学)の1部(生命工学)のみ、理科(理学)の2部(生命科学)、3部(理学)の3部、任命拒否されたのは1部(生命工学)のみ

用し任命拒否の「正当性」を訴えた。しかし、加藤氏はこの文書を当時の山極寿一学術会議会長に見せたかを問われ、「当時の事務局長が口頭で説明した」と答弁し、文書を十分共有していないことをうかがわれた。今井氏は「めちゃくちゃいいかげんだ。肝心なことに答えていない。こんなことでは学術会議の疑惑は終わらない」と述べ、追及を続ける考えを強調した。【竹地広慶 佐野格】

## 自民「あり方論」に終始

野党は「論点のすり替え」と反発を強め、首相への追及を続ける方針だ。

野党は「論点のすり替え」と反発を強め、首相への追及を続ける方針だ。